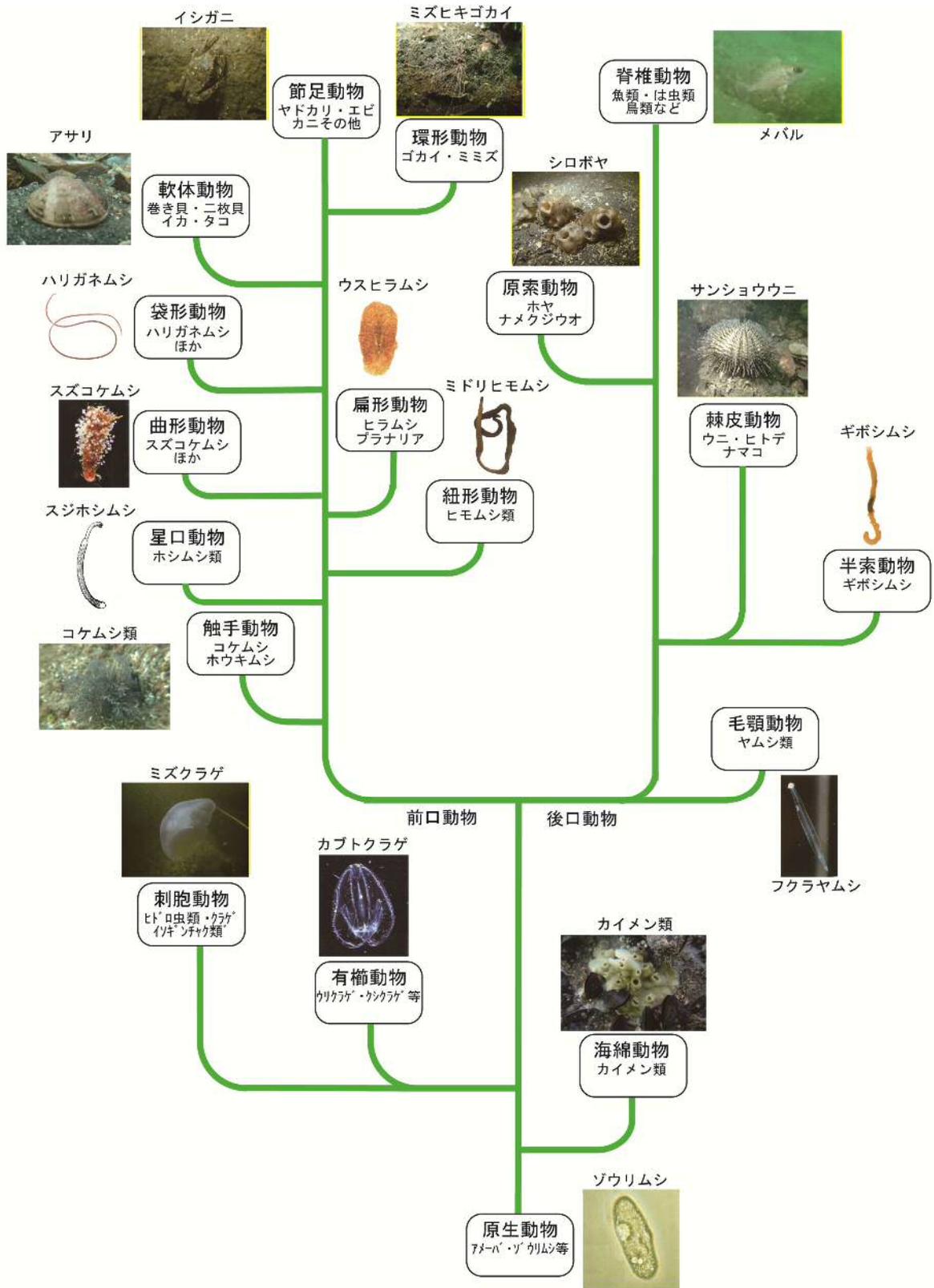


7. 海の生きもののつながり（系統樹）

動物界は分類学上、門、綱、目、科、属、種という順位で成り立っています。海の生きものは、単細胞の原生動物から多細胞の海綿動物や脊椎動物といった門に属する生きものです。



げんせい
原生動物

一つの細胞からできている動物（多細胞に対して単細胞という）で、原始的な生きものと考えられている。主に水中で活動している。

かいめん
海綿動物

原生動物から最初に現れた多細胞動物で、水生、固着性で、食物をこしとって食べる動物のなかまである。

しほう
刺胞動物

刺激に反応して毒針を発射する刺胞を取めた刺細胞がついた触手を口の周りに持っている。

ゆうしつ
有櫛動物

クラゲに似ているが毒針を発射する刺胞はない。

しよくしゆ
触手動物

繊毛のある触手を使ってえさを取る。触手の外側に肛門がある。

ほしくち
星口動物

体は円筒形で、口の周りが突き出しており体部と繋がる。口のある部分は自由にのびちじみし、先端には触手がある。

きよくけい
曲形動物

スズコケムシで代表される動物。からだは体部と柄部に分けられる。

ひもがた
紐形動物

海産または淡水産のひも状の動物。体は伸縮性に富み、表面は粘液でねばねばしている。体に体節はなく、表面は繊毛で覆われている。

へんけい
扁形動物

体は平たく体節がない。口は腹面の中央にあり、肛門はない。

たいけい
袋形動物

からだは短円筒形または糸状で、体壁と内臓の間に広い体腔を持つ。

なごがた
軟体動物

体は筋肉のかたまりで、頭部、胴部、足の三つの部分で構成されている。胴部は外套膜に覆われ、外套膜から殻が分泌される。

かんけい
環形動物

体は細長く、たくさんの環形をした体節でできている。脳のような神経のかたまりがあり、神経系が発達している。

せつそく
節足動物

体は多くの節からできていて、頭、胸、腹とそれぞれの部分に分かれている。

もうがく
毛顎動物

体は細長く、左右相称の遊泳性の動物。体は頭部、胴部、尾部からなり、尾びれを持つ。頭部背面に1対の眼点を持つ。ヤムシのなかま。

はんさく
半策動物

ギボシムシに代表されるなかま。体は細長く、先端は突き出しており、その下に口が開く。

きよくひ
棘皮動物

石灰質のプレートで囲まれた体腔を持つ。管足と呼ばれる触手が全身を覆っている。頭も尾もない。口は片側の表面中心にあり、肛門は反対側表面の中心にある。

げんさく
原索動物

終生あるいは幼生期に消化管の背側に脊索が存在する。

せきつひ
脊椎動物

脊索を囲むように軟骨性あるいは骨性の中軸骨格が形成される。中枢神経は管状で脊索の背方にあり、前方では脳を形成する。